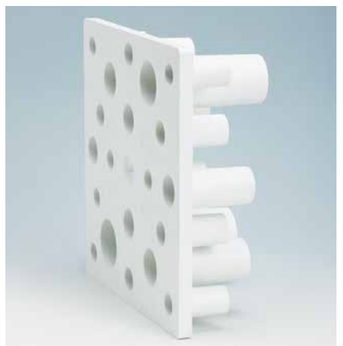
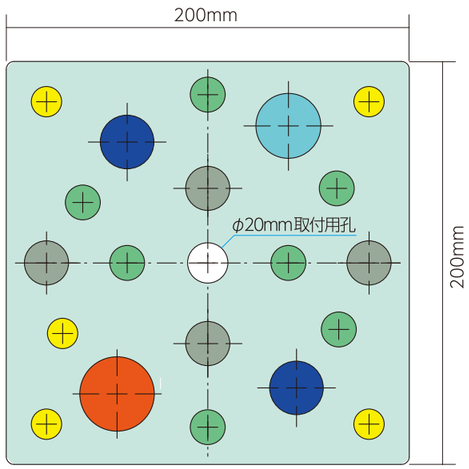
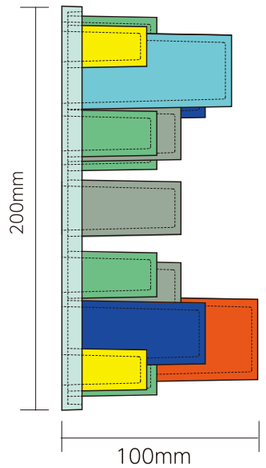
■諸元

軽量かつ耐久にすぐれ、藻場造成用のブロックと一体化が容易です。
主にK-hat リーフβ型や、根固めブロックなどに埋め込んで活用します。
材質：天然無機鉱物充填 AES 樹脂
重量：666g/ 個







登録と商品開発

特許	イセエビ用の増殖礁とその設置方法	特許第4998877号（水産総合研究センター）
	イセエビ用の増殖礁	特許第4998908号（水産総合研究センター）
意匠登録	イセエビ増殖礁	登録第1451586号（水産総合研究センター・住友大阪セメント共同登録）
	イセエビ増殖礁用プレート	登録第1451585号（水産総合研究センター・住友大阪セメント共同登録）
商品開発	エビクルハウス　穿孔作業不要なプラスチック射出成型による多孔プレート	
	K-hatリーフβ型（エビクルハウス付）	核藻場造成とイセエビ保育礁

住友大阪セメント株式会社

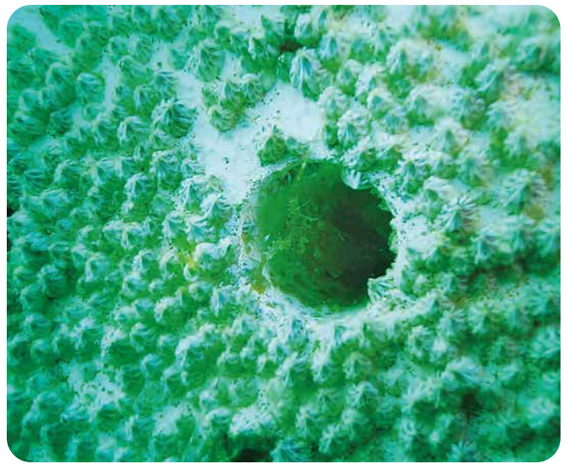
建材事業部
営業統括グループ
〒102-8465　東京都千代田区六番町6-28
TEL.03-5211-4755　FAX.03-3221-5183

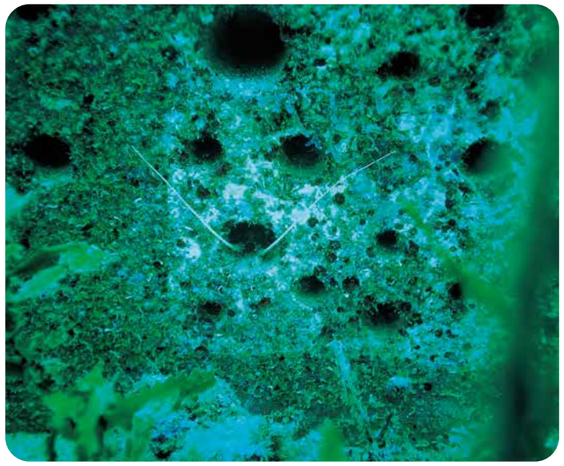
㈱SNC（住友大阪セメント海洋製品総代理店）
製品事業部 海洋製品グループ
〒811-2202　福岡県粕屋郡志免町大字志免90
TEL092-935-2764　FAX092-935-4379

イセエビの保護育成の決定版！

稚エビが安全に育つ最適な棲み家

エビクルハウス®





成長に併せて
ベストフィットな孔を用意
孔周辺の藻場は
稚エビの餌場として機能

エビクルハウスとは、水産総合研究センターとの共同開発によるもので、イセエビの子供であるプエルルス（通称ガラスエビ）や稚エビの保育に最適な隠れ場（ベストサイズの孔）を提供できるイセエビ保育用特殊プレートです。（同センターより基本特許について実施許諾を受けております）
藻場の中や海藻と一緒に設置すると効果的です。

SUMITOMO OSAKA CEMENT

着底したプエルルス～稚エビの脆弱な時期をエビクルハウスが守ります。

イセエビのライフサイクル

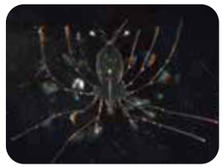
エビクルハウスが守る

1 年目
夏　秋　冬　春

孵化

沿岸で卵から孵化したフィロソーマ幼生は、数ヶ月沿岸域にとどまった後、沖合に広く運ばれる。

初期フィロソーマ幼生※
(体長 約0.5cm)



後期フィロソーマ幼生※
(体長 約3cm)

2 年目
夏　秋　冬　春

着底

孔が日中の隠れ場

フィロソーマ幼生からプエルルスに変態して沿岸に戻り、藻場に着底して稚エビに成長する。この間藻場は彼らを保護育成する大事な生活の場となる。また、稚エビは自分の体長にフィットする隠れ場(孔)を好む習性があるので、さまざまな口径・深さの孔を備えるエビクルハウスは彼らにとって最適な生活環境。もちろん、外敵に捕食される危険も少ない。孔の口径、深さは、水産総合研究センター西海区水産研究所の長年の研究成果より、稚エビの成長段階のジャストフィットサイズを提供。成長に伴い、小さな孔から大きな孔へ移動する。

プエルルス※
(体長約2cm)

エビクルハウスにて捕獲※された第一令の稚エビ

稚エビ※
(体長 10cm 程度)
孔から隙間に移動するぐらいのサイズ＝エビクルハウス最大孔に入るサイズ

エビクルハウスに住み着いたプエルルス(撮影後に戻した)

エビクルハウスで外敵から守られ、成長する

稚エビは成長にともないカラダの大きさピッタリの孔を選んで棲み家にする。

着底したプエルルス、稚エビにとって最適な環境・藻場を K-hat リーフが造り出す。

※ 水産総合研究センター提供

K-hatリーフβ型脚部のイセエビ

3 年目
夏　秋　冬　春

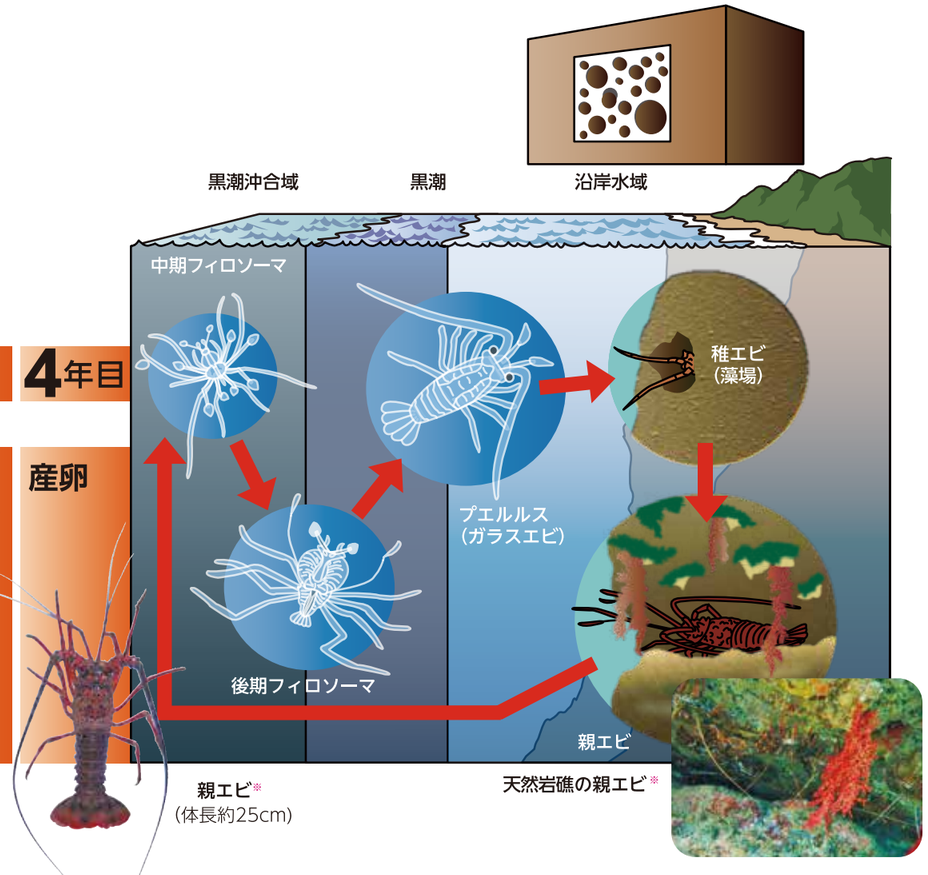
移動

孔より広い空間が隠れ場

成長した稚エビはエビクルハウスを離れ、親エビとして行動。刺網にもかかりはじめる。一部は産卵もはじめる。

4 年目

産卵



イセエビの保育・育成をサポートするエビクルハウスの活用事例

■ K-hat リーフへ装填

藻場造成に多くの実績があるK-hat リーフβ型へ装填。既に、プエルルスがたくさん着底することが実証されています。

K-hat リーフβ型(エビクルハウス付)

FA ブロック(エビクルハウス付)

■根固めブロックへ装填

根固めブロックにイセエビ保護機能を付加し環境に配慮した港湾・漁港工事に対応します。新たな活用事例として注目されています。

通常型枠に簡単に装着できる

エビクルハウス付根固めブロック

■エビクルブロック(人力施工簡易ブロック)

人力施工できる簡易ブロックは、プエルルス、稚エビの着底の有無などを簡便に確認するモニタリングツールとして利用できます。

エビクルハウス 3 面タイプ

人力で施工されたブロック